

安全データシート (SDS)

改定日: 2021年11月1日

1. 化学品及び会社情報

製品名	水溶性防腐剤 P		
推奨用途	水溶性添加剤		
使用上の制限	上記以外の用途		
会社名	日本グリース株式会社		
住所	横浜市鶴見区末広町1-12-4		
担当部門	営業本部	電話番号 045-501-0781	FAX番号 045-504-2213
緊急連絡先	技術研究所	電話番号 078-731-8147	
整理番号	J437701200		

2. 危険有害性の要約

GHS分類	急性毒性(経口): 区分4 皮膚腐食性/刺激性: 区分1 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性: 区分1 皮膚感作性: 区分1 特定標的臓器毒性(反復ばく露): 区分1(精巢) 水生環境有害性 短期(急性): 区分1
-------	---

GHSラベル要素
絵表示注意喚起語
危険有害性情報

危険	
H302: 飲み込むと有害	
H314: 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷	
H318: 重篤な眼の損傷	
H317: アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ	
H372: 長期にわたる、又は反復ばく露による腎臓、精巣、脳および脊髄、末梢血の障害	
H400: 水生生物に非常に強い毒性	

注意書き

【安全対策】

P260: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
P261: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
P264: 取扱後は手をよく洗うこと。
P270: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
P272: 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
P273: 環境への放出を避けること。

【応急措置】

P280: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
P304+P340: 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P302+P352: 皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹸で洗うこと。
P303+P361+P353: 皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
P363: 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
P333+P313: 皮膚刺激又は発疹が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。
P305+P351+P338: 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P301+P312: 飲み込んだ場合: 気分が悪い時は医師に連絡すること。
P301+P330+P331: 飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
P362+P364: 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
P310: 直ちに医師に連絡すること。
P314: 気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。

【保管】

P391: 漏出物を回収すること。

【廃棄】

P405: 施錠して保管すること。
P501: 内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。具体的には、都道府県知事等の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

※GHS分類から導かれる上記注意書きに記載がない場合でも、本SDS4~8章を参考にし安全対策/応急措置/保管/廃棄に関し十分な配慮を行うこと。

国・地域情報

国内外の情報に関しては「14. 輸送上の注意」「15. 適用法令」を参照すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物
化学名又は一般名	水溶性添加剤
成分及び含有量	添加剤 100%
化学特性(化学式)	特定できない
官報公示整理番号	企業秘密なので記載できない
CASナンバー	企業秘密なので記載できない
危険有害成分	
化学物質管理促進法(PRTR法)	非該当
労働安全衛生法	非該当
毒物劇物取締法	対象物ではない

4. 応急措置

吸入した場合	・ 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付着した場合	・ 汚染された衣服や靴を脱ぎ、製品に触れた部分を大量の水で15分以上洗浄すること。 洗浄後も異常が認められる場合は医師の診断を受けること。 汚染された衣服は着替え、再使用する場合には洗濯すること。
眼に入った場合	・ 直ちに清浄で適温の緩やかな流水で15分間以上洗眼すること。 速やかに医師の手当てを受けること。
飲み込んだ場合	・ コップ1～2杯の水または牛乳を飲ませて、ゆっくりと希釈させること。 無理に吐かせずに速やかに医師の手当てを受けること。 意識がない場合には、無理に水を飲ませないこと。
*いずれの場合においても直ちに医師の診断を受けること。	

5. 火災時の措置

適切な消火剤	・ 水、炭酸ガス、粉末消泡剤、アルコフォーム
使ってはならない消火剤	・ 知見なし
特有の危険有害性	・ 知見なし
特有の消火方法	・ 消火作業は風上から行う。 ・ 容器を放水により冷却する。
消火を行う者の保護	・ 防災保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	・ 漏出時の処理を行う際には必ず保護具を着用する。 必要に応じた換気を確保する。 着火した場合に備えて、消火器材を準備する。 多量の場合、人を安全な場所に避難させる。
環境に対する注意事項	・ 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起ささないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び 機械	・ 多量の場合には可能な限りせき止めし、ポンプなどで回収する。 少量の場合には砂・ウエス等で吸収させ、密封容器に回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	・ 皮膚、眼へのばく露防止のため、長袖の作業衣を着用し、適切な保護具(ゴム手袋、保護マスク、保護眼鏡)を装着する。 製品のミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 製品は漏れ、あふれ、飛散しないよう注意して取扱う。 取扱い後にうがいをし、手、顔などをよく洗う。 製品の容器は、転倒、落下、衝撃、引きずりなどの乱暴な取扱いはしない。
局所排気、全体換気 保管	・ 十分な排気下で取扱う。必要に応じて、局所排気設備を用いる。
安全な保管条件	・ 使用の都度、容器を密閉する。 容器は、施錠した換気の良い冷暗所に、一定の場所を定めて保管する。 製品の品質保護のため、0℃以下または40℃以上になる場所や雨水、直射日光のあたる場所、湿気の多い場所には保管しない。

安全な容器包装材料

- ・ 消防法及び国連輸送法規に規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策
管理濃度
許容濃度

- ・ 換気設備又は局所排気設備を用いる。
- ・ 記載なし
- ・ 日本産業衛生学会(2020年度版) データなし
- ・ ACGIH(2017年度版) データなし

保護具

呼吸器用の保護具
手の保護具
眼、顔面の保護具
皮膚及び身体の保護具

- ・ 呼吸用保護具を着用する。
- ・ 皮膚への接触を避けられる保護手袋を着用する。
- ・ ゴーグル型もしくは側板付き普通眼鏡型を着用する。
- ・ 皮膚への接触を避けられる耐薬品性の保護衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

液体

色

淡黄色～褐色

臭い

淡いアミン臭

pH

10.0 (20°C)

融点／凝固点

0°C

沸点又は初留点及び沸騰範

100°C以上

囲

可燃性

データなし

引火点

沸騰するまで引火せず

自然発火点

データなし

爆発下限界及び爆発上限界

データなし

／可燃限界

蒸気圧

データなし

密度及び／又は相対密度

1.14(20°C)

溶解性

水に可溶

n-オクタノール／水分配係数

データなし

分解温度

データなし

動粘性率

データなし

相対ガス密度

データなし

粒子特性

データなし

10. 安定性及び反応性

化学的安定性

- ・ 通常の使用下では安定である。

反応性

- ・ 知見なし

危険有害反応可能性

- ・ 知見なし

避けるべき条件

- ・ 酸性物質との接触を避ける。

混触危険物質

- ・ 酸性物質、酸化剤、還元剤

危険有害な分解生成物

- ・ 知見なし

11. 有害性情報

急性毒性

- ・ 経口 LD₅₀: 1,870mg/kg (推定値) 活性成分のLD₅₀: 670mg./kg (ラット♂)
- ・ 経皮 データなし
- ・ 吸入 データなし

皮膚腐食性／刺激性

- ・ 区分1の成分を5%以上含むため

眼に対する重篤な損傷性／

- ・ 区分1の成分を3%以上含むため

眼刺激性

呼吸器感作性又は皮膚感作

- ・ 呼吸器感作性 データなし
- ・ 皮膚感作性 区分1の成分を1%以上含むため

性

生殖細胞変異原性

- ・ データなし

発がん性

- ・ データなし

生殖毒性

- ・ データなし

特定標的臓器毒性

- ・ データなし

(単回ばく露)

特定標的臓器毒性

- ・ 区分1の成分を10%以上含むため(精巢)

(反復ばく露)
誤えん有害性

・ データなし

12. 環境影響情報

生体毒性
水生環境有害性 短期(急性) ・ 水生環境有害性 短期(急性)と水生環境有害性 長期(慢性)を参照。
水生環境有害性 長期(慢性) ・ 区分1の成分が25%以上含まれるため
LC₅₀(96hrs):1.6mg/L(ニジマス)
ErC₅₀(72hrs):0.11mg/L(藻類)
オゾン層への有害性 ・ データなし
・ モントリオール議定書の附属書に記載されている化学物質を含まないため、分類できないとした。
土壌中の移動性 ・ データなし
残留性・分解性 ・ データなし
生態蓄積性 ・ データなし
他の有害影響 ・ 知見なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 ・ おがくず・珪藻土などに吸収させて法規に基づき、行政が認定した少量ずつ焼却する。
取扱いについては、「7.取扱い及び保管上の注意」を参照。
汚染容器及び包装 ・ 内容物を完全に除去した後、法規に従い産業廃棄物処理業者等に処分を委託する。

14. 輸送上の注意

国際規制
国連番号 ・ UN3267
国連分類 ・ 腐食性物質(クラス8) / その他の腐食性物質(液体) / 容器等級 II
国内規制
陸上規制情報 ・ 労働安全衛生法、消防法等に定められている輸送方法に従う。
海上規制情報 ・ 船舶安全法に定められている輸送方法に従う。
航空規制情報 ・ 航空法に定められている輸送方法に従う。
特別の安全対策 ・ 運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷崩れの防止を確実にこなう。

15. 適用法令

消防法 ・ 非該当
労働安全衛生法 ・ 非該当
化学物質管理促進法(PRTR法) ・ 非該当
毒物及び劇物取締法 ・ 非該当
船舶安全法 ・ 危規則第2,3条危険物告示別表第1
海洋汚染防止法 ・ 施行令別表第1(プロパン-1,2-ジオール)
航空法 ・ 施行規則第194条危険物告示別表第1

16. その他の情報

※本書類中の%表示については、特に指定のない限り「質量%」を表す。

【参考文献】

原料SDS

安全データシート(SDS)は、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として取扱事業者提供されるものです。取扱事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いします。従って本データシートそのものは安全の保証書ではありません。また本データシートはJIS Z7253:2019に沿って、潤滑油協会にて作成したSDSモデル及び改定日時点で弊社のサプライチェーンを通じ上流メーカーから得られた情報を基に作成したものであり、その内容やデータについて弊社製品そのものを反映しているわけではなく、すべてを保証するものでもありません。各種法令改正や製品情報の改定により今後も内容が変更されますので、販売・流通事業者は、取扱事業者に対し、常に最新の安全データシートを提供するようお願いします。